

王 思文 (オウ シブン)

中国出身

日本女子大学 文学部日本文学科

1. 今までの留学生活

中国にいたとき、よく日本の推理小説を読んでいた。そのときは全然日本語の知識を持っていなかったため、翻訳された小説しか読めませんでした。また、日本の映画もよく見ていましたが、字幕依存の状態になっていました。映画の内容に専念するより、字幕ばかりを見て、映画を見ていました。様々なことを考えた上で、日本に留学することを決めました。

2年間日本語学校で学び、日本女子大学の文学部日本文学科に入学しました。その後は4年間の大学生活を送りました。最初は、日本語の能力がまだ上手くなかったため、大学1年生のときは本当に大変だと感じていました。想像していたような文学と文化に関わる講義ではなく、語学や古典の必修授業が多くありました。現代日本語しか勉強したことがなかった私は、全然慣れませんでした。

そのとき、1人の先生から、日本語教員養成講座のことを知り、自分と同じような日本語に困っている学生に助けられると、日本語教育に関わる授業を履修するようになりました。3年間を経て、日本語教員養成講座の必要な単位を取得しました。また、卒業論文も、日本語教育関連の内容を書きました。

元々は中国で映画創作について勉強していました。最初も、映画や脚本関連の専門を考えていましたが、文学と日本語に関連する知識が必要であると思い、日本文学科に進学をしました。そして文学を学習するとき、日本語と日本語教育の重要性がわかるようになり、日本語教育副専攻を決めました。

このように見れば、最初の「夢」と離れていると見えていますが、後悔することはありません。意外なことに、この6年間の勉学の経歴や、社会からの影響などを受けて、今の私になりました。学校で様々なことを勉強し、体験することにより、日本語、日本文学、日本文化などへの理解は深くなりました。これはよく言われている「成長」だと思います。

2. 2020年度の総結

2020年は不安な1年でした。新型コロナウイルスの影響は全世界に広がりました。最初は地元の家族や友人が非常に心配で、その不安感と共に、大学3年の期末試験が終わり、卒業論文テーマや先行研究をやっと決めました。中国人日本語学習者として、日本語学習経験を持つことのみならず、日本の漢字を学習するときの問題にも気づきました。そのため、卒業論文のテーマを中国人日本語学習者の漢字学習観に決めました。

新型コロナウイルスは各業界も影響に与えました。3年間ずっとアルバイトをしていた会社は契約中止になりました。新たなアルバイトを応募しましたが、なかなか見つかりませんでした。坂口国際育英奨学財団の奨学金をいただき、大学の勉強と論文の作成に専念できたことは本当によかったと思っています。また、様々なことも教えていただき、いつも優しくして頂いた皆様のお陰で、コロナが起こった不安感から、だんだん落ち着くことができました。

コロナの再拡大を防ぐため、大学も5月か

らオンライン授業が始まりました。しかし、オンライン授業はインターネットの通信状況に影響し、筆記を取ることも難しく感じました。習慣だった、放課後に大学の図書館で課題や勉強をすることもできなくなりました。対面授業と比べ、オンライン授業は学習効果が少し劣っていると感じました。

日本語教育は副専攻として履修していたため、教育学部の学生より専門知識が足りない気がしました。特に研究方法と分析方法を決めるとき、何回も変わったことがありました。幸いなことに、協力者とのコミュニケーションが非常に面白かったです。よく知らなかった学習方法や、漢字観なども初めて聞きました。同じ漢字圏である中国人日本語学習者は、日本の漢字を学習するとき、日本語の漢字学習状況は母語の影響を受けます。中国人日本語学習者が持っている「漢字観」は日中言語で異なることが明らかになりました。「学習ストラテジー」にも、日中両言語を意識的に区別して学習していることが見受けられます。対象者自身の学習経験や、社会的な影響により、「漢字観」、「学習ストラテジー」、「学習動機」も変化しつつ、日本語漢字学習観も変化することがわかりました。また、同じ日本語学習者でも、時期、状況により、日本語学習観も変化していくことが調査の結果から見られます。しかし、資料が漢字検定に限定されたため、調査の結果から確認できる情報が少ないと思っています。もっと日本語教育の知識を貯めて、漢字検定に限定せず、より中国人日本語学習者の漢字観が反映できる調査を行いたいと思っています。

3. 将来の計画

卒業後、大学院進学を考えていましたが、準備不足のため、その夢は叶いませんでした。日本の大学の学習と研究の雰囲気が好きで、

また大学院の試験に挑戦したいと考えています。学費や生活費などを考え、日本で就職することに決めました。同級生より遅くなってしまいましたが、早めに状態を調整して、社会人として新たな学習を始めます。

社会は、様々な知を勉強できる「学校」だとよく耳にします。お世話になった先生にも、似たことを言われました。実は、よく在日中国人のグループから、「敬語が苦手」や、「公的なメールの作成が難しい」などの困りごとが見られました。大学や専門学校から卒業し、日本で就職する彼らが、まだ様々なことを勉強すべきであることがわかりました。このようなことは、日本で就職する外国人のみでの理解は難しいでしょう。どんな仕事でも社会に価値があることですが、一番憧れているのは先生です。様々な知識を学生に身につけさせ、世の中の道理を理解させることは先生の仕事だと考えます。しかし、今の私が持っている知識はまだ足りないと思っています。より知識を増やし、コミュニケーション力を備えなければなりません。そのため、努力し続けるべきです。

この1年間は、坂口国際育英奨学財団の皆様のお世話になり、誠にありがとうございます。貴財団の皆様のお陰で、私たちのような留学生たちは学習や研究などに集中できて、夢が叶えられるようになりました。心より感謝いたします。また、日本に居続けることに決めました。よろしければ、今後も、どうぞよろしくお願いいたします。

2021年2月